特集

そうだ、桜を見に行こう

今月の表紙

願船寺に咲く河津桜（2月20日撮影）。もうすぐ咲きそうな蕾（つぼみ）が春の訪れを感じさせます。

皆さんは〝桜〟と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。「散歩の途中に見上げる満開の桜」、「入学式・卒業式の校庭に舞う花びら」「毎日の通勤ルートが華やかになる沿道の桜並木」など、思い浮かべる情景は人それぞれだと思います。しかし、そこに共通しているのは、桜が「春の訪れ」を知らせてくれる存在だということではないでしょうか。今号では、3人の方へのインタビューを通して、村の桜がもつ魅力やその背景を知るとともに、それぞれが持つ桜への想いを深掘りしました。

博物館長にインタビュー

はじめに、歴史と未来の交流館博物館長の安嶋隆さんに、日本人が長く桜に親しんできた理由や、村の桜の特徴をお聞きました。

安嶋 隆さん
歴史と未来の交流館 博物館長

私は、村の自然や植物などを調査しています。博物館長になる前は、県内の高校で生物を教えていました。村とは、「自然調査団（植物調査部門）」として平成2年から関わっています。

始まりを告げる桜

日本では、仕事も学校も4月から始まることが多いと思います。新しい年度のスタートと桜の開花が重なることで、桜はいつしか〝物事の始まり〟を象徴する植物として親しまれてきました。私自身も、桜の開花時期になると「今年の植物調査がいよいよ始まるな」と感じます。

村では多様な桜が見られる

村の桜の特徴は、小さなまちにも関わらず、さまざまな種類が見られることです。阿漕ケ浦公園の染井吉野や村内に広く分布する大島桜。さらに、3月上旬に咲く河津桜や5月中旬に咲く八重桜など、長い期間にわたり、まちが桜色に染まります。

紙面では伝えきれない桜の魅力はもちろん、村の自然・歴史についてもお話できますので、ぜひ歴史と未来の交流館へお越しください。子どもから大人まで大歓迎です。

また、交流館で作成した「東海村桜マップ」では、自生種を片仮名、園芸種を漢字としていますが、今号では、読みやすさを考慮し漢字に統一しています。

石神城址公園の染井吉野 ©矢作博史さん

阿漕ケ浦公園の染井吉野

阿漕ケ浦公園の桜並木 ©水戸桜川日本花の会

須和間の大島桜 ©水戸桜川日本花の会

村内で大島桜が多く見られる理由

大島桜は、伊豆大島原産の桜で、村内にも多く植えられています。その背景には、工業の発展に伴う煙害が深く関わっています。

明治38（1905）年、久原房之助が「日立鉱山（現在の日立市内）」の経営を始め、銅の精錬事業が本格化しました。事業の拡大の影で、煙の排出により周囲の農作物や植物が枯れる被害が発生しました。

この煙害問題の対策の一つが、大島桜の植林でした。活火山である伊豆大島で咲いている大島桜は、煙害に強く、日立鉱山付近でも変わらず咲き続けました。

実は、この煙害に強い樹木の研究が行われていた農事試験場は、ここ東海村にあったのです。大島桜は繁殖力が極めて高いこともあり、村内の広い範囲でも見られるようになりました。

一方で、日立市には、大島桜の苗に染井吉野を接ぎ木して育てた桜が多く植えられたことから、染井吉野が咲き誇る名所がいくつもあります。

船場区自治会集会所

地域の皆で植えた八重桜

©水戸桜川日本花の会

先人が植えてくれた桜が地域のつながりを育んでいます

平成30年3月に現在の船場区自治会集会所ができる前は、「船場田園都市センター」という施設がありました。平成23年の東日本大震災の影響で使用できなくなり取り壊しましたが、この場所は、長年、住民の憩いの場として親しまれてきました。

現在の集会所に咲く八重桜は、昭和53年に船場田園都市センターを建設した際、自治会役員が「住民が花見を楽しめるように」と選んだものです。約100本の苗木を、地域の住民が総出で植えました。

私たちは、今でもこの桜を大切に守り続けています。集会所の建設時には1本も伐採しないように設計して、今では船場地区のシンボルとなっています。毎年4月第3日曜日には「船場桜まつり」を開催し、子どもから大人まで多くの方が、桜に囲まれた広場で花見を楽しんでいます。地域のつながりが希薄になりがちな現代において、この八重桜は人々をつなぐ大切な役割を果たしています。先人たちが植えたこの伝統ある桜をこれからも守っていきます。

萩谷 清美さん
船場区自治会長

▲船場桜まつりの様子

願船寺

境内を彩る河津桜

ご門徒さんが大切に植えた桜が毎年きれいな花を咲かせます

願船寺の境内には、ご門徒さんの手によって植えられた樹木がたくさんあります。

春になると染井吉野などさまざまな樹木が見頃を迎えますが、その一つに、河津桜があります。今から約8年前に、ご門徒さんの一人が道路から見えやすい位置に植えてくれた桜です。河津桜は早咲きの桜で、早いと2月下旬に開花します。道路から見上げると美しく、散歩する方たちにも大変喜ばれています。

本来、お寺は人々が集い、心を寄せる場所だと考えています。願船寺の境内には、ご門徒さんの思いが込められた多くの樹木があり、まさに〝人々の手で彩られた場所〟となっています。河津桜を見に来てくれた人が境内にも足を運んでくれれば、住職としても大変うれしく思います。願船寺と言えば、イチョウのイメージがあるかも知れませんが、春にはご門徒さんの想いが詰まったさまざまな桜が咲き誇ります。春の花が彩る境内にも、ぜひお越しください。

藤井 学昭さん
願船寺住職

▲願船寺の河津桜（2月20日撮影）

村内各所には
さまざまな桜が咲き誇っています。
あなたはどの桜が好きですか？

＼安嶋先生に 聞いてみた！／

博物館長のお すすめ桜スポット

東海村でお気に入りの
桜色を探してみよう！

石神城址公園

種類　染井吉野、山桜
見頃　4月頃

広場を包み込むように咲き誇る染井吉野

東海十二景に選ばれた名所で、春には広場をぐるりと囲むように染井吉野が咲き誇ります。芝生と桜、そして澄んだ青空の対比が美しく、お花見にも写真撮影にもぴったりです。

歴史と未来の交流館

種類　山桜、大島桜
見頃　4月下旬

自然の桜が今も春を彩る

交流館は、元々自生していた樹木を生かして建設しており、その中には山桜が7本と大島桜が1本あります。暖かい陽気の中、ベンチに座って桜を見上げるひとときもおすすめです。

▲東海村の
桜MAP

「東海村の桜MAP」を手に、お花見に出かけませんか

今号で紹介した桜スポットや桜の種類をまとめた「東海村の桜MAP」と「桜パンフレット」を、歴史と未来の交流館で販売しています(セットで100円)。

また、村公式ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。自分だけのとっておきの桜を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

久慈川沿いの道路

種類　陽光
見頃　3月下旬

久慈川沿いに咲く紅色の桜

久慈川沿いの道路に咲く陽光は、紅色の大きな花をつけるのが特徴です。道路から見下ろす形で花見を楽しめるので、近くを通る際は寄り道してみてはいかがでしょうか。

©古平均さん

阿漕ケ浦公園

種類　染井吉野、山桜、大島桜、枝垂れ桜
見頃　4月頃

園内に咲く染井吉野
開花時は桃色一色に染まる

園内各所に染井吉野が植えられており、桜並木を歩きながらゆっくり満喫できます。他にも豊富な種類が植えられていますので、散歩しながら楽しめます。

©水戸桜川日本花の会